



5月の聖句

主よ、わたしの祈りを聞いてください

詩編 102 編 2 節

柿や桜・イチョウの木々の新緑もまぶしく風薫る過ごしやすい季節になりました。

飼育コーナーに昨年の秋から越冬していたアゲハの幼虫が、先週から次々に羽化しました。私は半信半疑でしたが、栗山教諭の“必ず羽化する”の言葉通り暖かくなって飛び立つ蝶を見つめながら命の不思議さと生きる力を教えられました。

入園進級して3週間、年少さんは給食も始まり時間も長くなりました。不安で泣いていた新入の子ども達も少しずつ安心して過ごせるようになり、進級児も緊張した表情も和らげられました。

年中さんは2階での生活にもすっかり慣れ、リトミックや体育遊び、新たにタッチラグビーも加わりましたが、みんな前向きに取り組む様子がとても嬉しいです。

年長さんはクラスごとに皆で考え力を合わせて作った2匹の鯉のぼりが完成、22日午後全園児が見守る中、風に吹かれ空高く泳ぎました。「大きい!」「かっこいい!」と年中さん、見つめる晴れ晴れとした年長さんの顔が印象的でした。

クラスごとの鯉のぼりを作り始めて、もう随分長くなります。“作るかどうかの投げかけ”から話し合いがスタートします。「材料は何にするか?」「うろこは?」「目は?」と・・・それぞれのアイデアに「それいいね!」と共感したり「こっちがいいよ」等と意見を出し合い作り上げる過程がとても大切です。そんな中で進級の不安や緊張もいつの間にかほぐれ、クラスの仲に親しみが生まれます。その積み重ねが年長さんのこれからの活動の大きな力になっていくのです。

「この学年、初めての遠足です」動物園への遠足の日、年少・年中の担任だった棚田教諭の一言に、この2年コロナでいろんな行事が中止や変更を余儀なくされたことを思いながら…大型バスから降りる子ども達の満足そうな様子に、みんなと一緒に動物園に行けて本当に良かった!と心から思いました。これからの年少・年中の遠足や参観・年長さん主催の歓迎会などの活動が5月のさわやかな気候の下で予定通り出来るよう願っています。

「東京都リバウンド警戒期間」が5月22日まで発令され、コロナへの不安も収まっていません。園としてもこれまで通り感染対策をしながら健康に留意して過ごしたいと思います。



朝のお集まりや食事の前に子ども達と共に祈っています。「恵みの雨の日も・良いお天気も」「休んでいる友のこと」そして食事への感謝や願い等々、目を閉じて心を込めて静かに祈る時を大切にしています。

